



●発行年月日/令和2年4月1日 ●編集/船橋市立医療センター広報委員会 ●発行責任者/院長 丸山 尚嗣
〒273-8588 船橋市金杉1-21-1 ☎047-438-3321(代) <http://www.mmc.funabashi.chiba.jp>



「大原の里の春」(京都府)元総務課主幹 羽鳥賢二氏撮影

疫病退散を願う

船橋市立医療センター院長 丸山 尚嗣

春を迎え、桜が美しく花を咲かせました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の不安もあり、今年のお花見は楽しめなかった方が多いのではないのでしょうか（この原稿を書いている時点ではまだ桜の蕾は固い段階です）。ウイルス感染の爆発的な拡大を抑えるために、行政をはじめ病院・診療所など全ての医療従事者も、それぞれ精一杯できることをやっています。当院も地域の中核病院として使命を果たすべく、感染制御室をはじめとして病院をあげて対応しています。当院には、がんの闘病中で体力・免疫力が低下している患者さん、妊婦さん、あるいは様々な病気で重症の患者さんも大勢いらっしゃいます。患者さんを感染から守り、また同時に病院のスタッフも守りながら、当院の果たすべき機能をしっかり維持するために、さまざまな対策を行っているところです。状況が日々変化しておりますが、市民の皆様もそれぞれ自分がどう行動すればよいかを冷静に考えていただき、皆で力を合わせてこの困難な状況を乗り切っていきたいと思えます。感染のリスクが低下するまでの間、来院者の面会制限や体温測定その他、ご不便やお手をかけますが、何卒ご理解の程よろしくお願いいたします。

目次

病院事業管理者あいさつ／人事異動紹介……………	2	医療を学ぼう in 図書館／研修医のつぶやき ……	7
新任者・退任者あいさつ……………	2～3	第41回 公開医療講座／当院で働く人々 ……	8
特集 患者さんの円滑な退院に向けた取り組み ……	4～5	救命救急センターの現場から／剖検慰霊祭／職員募集 ……	9
治療と仕事の両立支援／一般演題発表優秀賞／ 第58回全国自治体病院学会の優秀演題 ……	6	外来担当医師一覧表……………	10

病院事業管理者あいさつ

船橋市病院事業管理者 高原 善治

昨年度は、台風による災害や新型コロナウイルス感染症への対策が問題となりました。当院においては、台風の被害はほとんどありませんでしたが、県内の被災地域に向けて被災直後にはDMAT（災害派遣医療チーム）が出動し、その後も看護師支援派遣を行いました。また新型コロナウイルス感染症の際には、帰国者隔離施設へDMATを派遣しました。今後も色々な災害に対しての備えと対応を充実させていくことの重要性を感じました。

当院は救急医療とがん診療を中心とした高度急性期医療の向上を図っています。救急車、特に三次救急患者（重篤な患者）さんを積極的に受け入れており、急性期脳卒中患者

の専門的治療を行うSCU（脳卒中ケアユニット）の利用率はほぼ100%に近い状態でした。一方、がん診療では緩和ケアセンターが、すべてのがん患者さんやご家族に寄り添った支援を目標に秋から活動を開始しました。このほか、外来化学療法室を増床し、放射線治療も質の向上に伴って件数が増加してきています。

4月からは老朽化した病院の建て替え・移転に向かって基本設計が始まります。今年度も安定した経営の下、市民の皆様や近隣の連携医療機関から頼られる病院を目指して邁進してまいりたいと思います。

人事異動紹介 (4月1日)

医局	新任者	退任者
心臓血管センター長	福澤 茂	稲垣 雅行
臨床研究部部長	鮫田 寛明	稲垣 雅行
臨床研究部治験管理室長	鮫田 寛明	稲垣 雅行
消化器内科部長	小林 照宗	水本 英明
形成外科部長	小野紗耶香	内田 龍志

放射線技術科	新任者	退任者
技 師 長	大山 正哉	林 圭吾

看護局	新任者	退任者
副看護局長	石井 洋子	—
副看護局長	小松 邦子	—
A3病棟師長	君野 寿美	宮嶋 明子
A C U 師長	君野 寿美	宮嶋 明子
A6病棟師長	江里口敦子	山田 綾子
B4病棟師長	富迫 里美	井上 薫
B6病棟師長	宮嶋 明子	富迫 里美
医療安全管理室副室長	山田 綾子	石井 洋子

※人事異動に伴い、外来診療体制が変更されています。(詳しくは10ページをご覧ください)

診療科名	採用			退職		
呼吸器内科	伊藤 拓			白石 結佳		
消化器内科	伊在井 亮	渡部 主樹		古賀 邦林	山田 奈々	
心臓血管センター				稲垣 雅行		
循環器内科	林 智彦			降旗 修太		
腎臓内科・リウマチ科	松野 裕樹					
精神科	若菜 護			畑田 恵美		
小児科	甲斐 千明	山崎 裕子		齊藤 裕子	今泉 孝章	坂本真季子
外科	小寺 輝	比毛修太郎	遠山 根宇	桑山 直樹	間宮 悠	
乳腺外科				玉貫 圭甲		
整形外科	北條 篤志	秋山 友紀	山田 有徳	山本景一郎	久保田憲司	濱田 剛史
形成外科	小野紗耶香	浅井麻衣香		内田 龍志	小曾根琢真	
脳神経外科	横山 大騎			上田浩太郎		
心臓血管外科	稲毛 雄一	柴田 裕輔		谷 建吾	橋本 昌典	伊藤駿太郎
皮膚科	今関 梓	深田 義仁		亀田 瑛佑		
泌尿器科	武井 亮憲			齋藤 心平		
眼科	太和田昌枝			武石真里恵		
耳鼻いんこう科	砂金 美紀			宮田 卓		
麻酔科	木村 友則	小堀 文正				
救急科	三浦 剛史	高谷 信宏				

新任者あいさつ



診療局技監（兼心臓血管外科部長）茂木 健司

令和元年10月より、診療局技監を拝命いたしました。

平成13年に赴任して以来、心臓血管外科医として、船橋市および近隣の患者さんの外科診療に全精力を注いで参りました。これからは病院運営にも積極的に関わり、当院が、患者さんに喜ばれ、地域から信頼され、スタッフがやりがいを持って働ける病院であるように、微力ではありますが誠心誠意努力していく所存です。ご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。



心臓血管センター長 福澤 茂

この度 4月より心臓血管センター長を拝命いたしました。
 当院は東葛南部地域の三次救急医療機関、地域の中核的拠点となっており、心臓血管センターの担う役割はますます重要になってきております。その中で循環器疾患の治療は、すべてチームプレイで行うものだと思います。カッコいいスタンドプレイのチャンスはありません。しかし、どんな難問に直面しても、チームワークでそれを解決していく心臓血管センターとして、さらに成長するよう全力を尽くして更なる精進をいたす所存でございます。
 今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



臨床研究部部長（兼治験管理室長） 鮫田 寛明

この度、臨床研究部部長を拝命いたしました。治験とは、新しい「くすり」が国の承認を得るために安全性や有効性を確認するために行う臨床試験のことです。医療の進歩に加え、治験に参加する被験者の安全や利益に配慮し、治験を行っていきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。



消化器内科部長 小林 照宗

この度、消化器内科部長を拝命致しました。私が当院に赴任し、早いもので15年が経ちました。我々消化器内科は食道や胃、大腸などの消化管と肝臓、胆嚢、膵臓の疾患を中心に診療していますが、近年では低侵襲治療という言葉どおり身体への負担が少ない治療のニーズが高まっています。内科ではありますが胃や大腸の早期がんに対する内視鏡手術や肝臓がんに対する低侵襲手術も積極的に行っています。
 新病院建設という大事な時期であることを肝に銘じ、部長という重責を果たしていく所存です。これからも多くのスタッフに支えられながら盤石な診療科を目指していきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

退任者あいさつ



心臓血管センター長（兼臨床研究部部長兼治験管理室長） 稲垣 雅行

平成6年4月から、心臓血管センター長、循環器内科部長、臨床研究部部長を務めさせていただき、3月31日をもちまして定年退職することになりました。循環器内科では、不整脈に対するカテーテル治療やペースメーカー治療、心不全に対する多職種地域連携に関わりました。臨床研究部では、「新しい薬」を開発する治験に携わりました。皆様のご支援を頂き、多くのことを学ぶ機会が得られました。心より感謝し、厚く御礼申し上げます。



形成外科部長 内田 龍志

この度3月31日をもちまして異動することとなりました。2002年に始まり、当院には常勤医、非常勤医として4回目の赴任となりました。その都度、スタッフの方々に成長させていただいてきた気がいたします。本当にありがとうございました。
 行ったり来たりしておりますので、自分の中では退職というより異動という表現がしっくりきます。患者さんからも「どうせ、また戻ってくるんでしょ?」とあっさり言われます。なんだか、そんな気がしないことはありません。
 どんな場所でも、その地域に根差した医療に邁進したいと思いますので、またご縁がございましたら、その際はどうぞよろしくお願い申し上げます。



放射線技術科技師長 林 圭吾

この度3月31日をもちまして退職いたしました。開院以来、診療放射線技師として、また、技師長としては1年足らずではありましたが、多くの皆様方に支えられてきた37年間であります。感謝の気持ちでいっぱいです。これからも地域の方々に愛される病院として今後とも益々ご発展することを心よりお祈りいたします。



医事課長 出戸 尚久

この度3月31日をもって定年退職いたしました。平成18年10月から途中3年間の市役所へ戻っていた時期を挟み、通算10年6ヶ月にわたり、医事課一筋で頑張ってきました。
 医事課は、診察の受付から会計まで患者さんと関わる部署です。私も平成26年からは毎朝インフォメーションに立って、来院された患者さんへ診療のご案内などをさせていただきました。
 当院はこれからも「患者さんに信頼される医療」を目指して、更に発展していくと思いますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

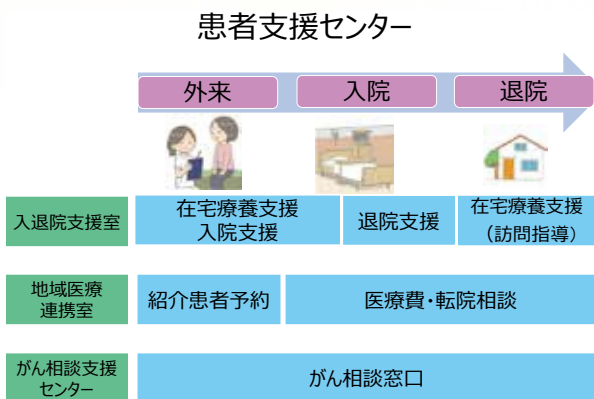
特集

患者さんの円滑な退院に向けた取り組み

患者支援センター 入退院支援室 副看護師長 訪問看護認定看護師 稲垣 麦野

平成31年4月に『患者支援センター』が整備され、この中に「入退院支援室」、「地域医療連携室」、「がん相談支援センター」が置かれました。患者さん、ご家族にとって入院して治療を行うことは、入院生活や治療への不安や緊張など多くの心配ごとがあるかと思えます。これに対して「入退院支援室」の役割は、安心して入院生活を送り、退院後の生活にも不安ができるだけないように支援することにあります。

入院が決定した時点で、入院前の生活についてお話を伺い、個々の患者さんへの説明を行うことで、入院生活や治療がどのように進むかイメージしていただけるよう支援します。退院後の生活について心配がある患者さんには、安心して退院できるよう、入院前から退院支援看護師や医療ソーシャルワーカー（MSW）が関わり支援します。



患者さんに「ここに相談に来てよかった」と感じていただけるように頑張っています！

安心して退院後の生活が送れるよう、退院前や退院後に当院の看護師がご自宅へ訪問させていただくこともあります。

外来から入院、入院から在宅に向け、安心して住み慣れたお住まいでの生活を送ることができるよう、全力でお手伝いさせていただいています。

入院前から患者さんへの退院に向けた関わり

外来での入院治療決定後面談；入院診療計画、日常生活のご様子、アレルギーや内服薬の確認をし、入院生活の説明をします。必要に応じて、退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー（MSW）、がん相談支援センターや院内の様々なチームなど関連部署につなぎます。



安心して入院生活を送ることができるようお手伝いしています



入院中；退院支援看護師や医療ソーシャルワーカー（MSW）が、患者さんご家族のお話を伺いながら、地域の関係機関と調整し、退院後の生活に向けて支援します。



多職種でカンファレンスをしています



多職種カンファレンス；看護師だけでなく、リハビリテーション科などそれぞれの専門性に基づいた適切なケアを検討します。患者さんをどう支えるか、チームで関わります。



退院後に関わってくださる訪問看護師さんやケアマネジャーさんと入院中にカンファレンスを行います



退院前カンファレンス；退院後に継続した支援が受けられるよう、訪問診療、訪問看護、ケアマネジャー等地域の様々な関係機関の方々と連携し、入院中にカンファレンスを行います。退院後の心配を少しでも減らすことができるよう、入院中にお顔合わせをしています。



退院前訪問指導；外出・外泊時や退院時に同行訪問をし、自宅で行う医療処置の指導や自宅での療養環境の調整を行います。患者さんの実際の生活の場で、問題がないか、不安なことはないかを確認します。



入院中患者さんに最も近く関わっていた病棟の看護師と共に退院支援看護師がご自宅を訪問します

退院後訪問指導；退院後1ヶ月の間、安心して自宅での生活ができるよう、医療処置が必要な患者さんの自宅へ訪問をします。当院の退院支援看護師だけでなく、専門看護師、認定看護師も訪問します。

退院後も必要なケアを自宅でも継続できるように、退院後に関わる訪問看護師さんやケアマネジャーさんへ直接お伝えすることが可能となります。



当院の専門看護師・認定看護師もご自宅へ訪問をします

こんなこともやっています！

* 地域の関係機関の方々をお招きし、ケースカンファレンスや研修会を実施しています。

* 退院支援院内認定看護師；各部署において退院支援のロールモデルとなり、退院支援を推進していくことができる看護師として活動しています。現在6名が取得しています。



こんなに多くの地域の関係機関の方々とケースカンファレンスをしています

治療と仕事の両立支援を行っています

当院では、令和2年2月より「治療と仕事の両立支援」の窓口を開設しました。

「治療と仕事を両立できるか不安」「病気のことを会社にうまく伝えられない」「今後の働き方について誰かに相談したい」「がんと診断されたが今の仕事を継続したい」といった治療と仕事に関する悩み・心配について、看護師・社会福祉士が、千葉産業保健総合支援センターと協力して相談に応じ、仕事を辞めずに治療を継続できるよう支援を行っています。

仕事を辞めずに治療を継続したい方及びそのご家族の方で、がんに限らず全ての疾患が対象となります。お1人で悩まず、まずは当窓口にご相談ください。

相談窓口：患者支援センター

相談日：予約制になりますので事前にご連絡ください

費用：無料

治療と仕事の両立支援 について ご相談ください

あわてて仕事を
辞めないで!!

- ◆治療と仕事を両立できるか不安
- ◆病気のことを会社にうまく伝えられない
- ◆がんと診断されたけど今の仕事を継続したい
- ◆今後の働き方について誰に相談したらいいかわからない など

千葉産業保健総合支援センターの『両立支援促進員』が、船橋市立医療センターの相談員と協力して相談をお受けします。

- 【対象】 仕事を辞めずに治療を継続したい方、ご家族の方
(疾患は問いません)
- 【場所】 船橋市立医療センター 患者支援センター
- 【費用】 無料
- 【相談日】 予約制
- 【予約先】 船橋市立医療センター 患者支援センター
TEL. 047-438-3321

並木薬剤師が一般演題発表優秀賞を受賞しました！

千葉県糖尿病療養指導士／支援士フェスティバル2019で「水疱性類天疱瘡発症患者のDPP-4阻害薬の服薬状況と、インスリン導入に関する調査」の発表を行い、一般演題発表優秀賞をいただきました。

近年、糖尿病治療薬のひとつであるDPP-4阻害薬が原因と思われる水疱性類天疱瘡の報告が増えています。今回の調査研究では、この副作用を早期に発見し、重篤化させないために、薬剤師としてどんなことができるかを検討しました。今後も副作用で苦しむ患者さんを減らしていけるように、医師、看護師とチームで、治療や研究に取り組んでいきたいと思っております。



貫井副看護師長の発表が第58回全国自治体病院学会の優秀演題に選出されました！

今回の研究は、副師長会議の「身体拘束解除を目的とした」ワーキンググループ活動の一環として「急性期病院の病棟看護師の身体拘束と身体拘束解除に関する判断や行動の実態調査」を実施しました。結果は、調査期間中の入院患者さんの身体拘束の延べ件数が想像以上に多く、看護師が身体拘束マニュアルを順守し「身体拘束をしないために様々な対策を講じている」ことや、看護師が「身体拘束を行うにあたり、患者さんの安全確保と倫理的葛藤の間でジレンマを抱えている」ことがわかりました。

今後は、看護局が一丸となって、「患者さんへ身体拘束をしない看護の推進」の目標達成のために今回の発表を活用し、継続研究に取り組みたいと思っております。



※この「医療センター News」のバックナンバーは当院ホームページでご覧いただけます。

医療を学ぼう! in 図書館

船橋市西図書館では、毎月医療講演会と相談会を開催しています。令和2年度は西図書館に加えて、中央図書館・二和公民館・習志野台公民館の3箇所です。皆様のご参加をお待ちしております。

○最近の講演会の様子

医療講演会（船橋市西図書館）

第40回 1月 「インフルエンザのはなし～予防と治療、最新情報～」 呼吸器内科部長 中村 祐之

インフルエンザが流行している時期に合った演題でした。最新情報に加えて、日ごろの生活に役立つ予防などのお話があり、会場の参加者はみなさん熱心に講演を聞いていました。

出張講演会（習志野台公民館（船橋市東図書館併設））

第10回 2月 「口の中にできものありませんか？」 歯科口腔外科部長 村野 彰行

口の中の異常の発見や、良性、悪性の見分け方など多くの写真を交えながらお話がありました。歯科衛生士より口腔内フレイル（虚弱）、嚥下機能テストについてのお話やブラッシングなどの日頃からできるケアに関するお話があり、会場から多くの質問をいただきました。



以下の講演会は諸般の事情により、中止させていただくこととなりました。

<医療講演会>

第41回 2月20日（木）「鼻科治療のはなし」 耳鼻いんこう科部長 小林 皇一

第42回 3月 7日（土）「パーキンソン病のはなし」 脳神経内科医長 鶴岡 淳

第43回 4月16日（木）「肺がん検診 ちゃんと受けていますか？」 呼吸器外科部長 一ノ瀬 修二

<出張講演会>

第11回 4月 2日（木）「胆石のはなし」 消化器内科副部長 東郷 聖子

○今後の講演会の予定

医療講演会（船橋市西図書館） 要申し込み 先着50名 14:00～15:00

日程	演題	演者
5/21（木）	ピロリ菌と胃十二指腸潰瘍・胃がんのはなし	消化器内科医長 笠松 伸吾
6/ 6（土）	ここまで来た肺がん治療の最新治療	腫瘍内科部長 平野 聡

講演会・相談会申し込み先：西図書館 TEL047-431-4385 毎月1日 9:30より受付

出張講演会（二和公民館（船橋市北図書館併設）） 要申し込み 先着50名 14:00～15:30

日程	演題	演者
6/13（土）	たばこ動脈硬化	循環器内科部長 福澤 茂

申し込み先：北図書館 TEL047-448-4899 毎月1日 9:30より受付

※予定は変更する場合がありますので、広報ふなばしや図書館HP等でご確認ください。 患者支援センター 宇美 由美

研修医のつぶやき



初期臨床研修医2年 服部 美徳

当院で働き始めてからもう1年が経ちました。昨年、研修医1年目として働き始めた頃は右も左も分からず、多くの困難を経験し、様々な人に支えられながら仕事に励んでいたことを覚えています。学生の頃はとにかく医療知識を学ぶことに精一杯で、医療者として現場で必要とされる立ち振る舞いに関しては自信がありませんでした。いざ働き始めて真っ先にお世話になったのは当時の研修医2年目の先輩方でした。医療者としてのマナーや患者さんをはじめとする多くの方々との接し方を私たちに教えてくれたと同時に、仕事のやりがいや感謝される喜びについても嬉々として語ってくれたことを覚えています。そういった指導もあり、まだまだ未熟ながらも医師としての自

覚、自信を持って患者さんの前に立つことができるようになってきていると感じています。

先輩方は初期臨床研修医を卒業し、それぞれの専門科を極めるべく新たな環境へ進んでいきました。今度は私たちが1年目に指導する立場です。先輩方が伝えてくれたことを上手に後輩へと還元できるかは少し不安な面もありますが、医療従事者としての見本になれるよう精一杯頑張りますので何卒よろしく願います。



当院は省エネに取り組んでおります。ご協力お願いいたします。



「意外と知らない便秘のはなし」を開催しました



1月30日（木）に市民文化創造館（きららホール）にて、東郷消化器内科副部長を演者とした公開医療講座を開催しました。今回の講演では、排便のメカニズムや便秘の改善方法などについて、わかりやすく解説を行いました。

東郷副部長は、「便秘を改善するためには、水溶性食物繊維を摂取することや、食事・睡眠・運動によって腸をなるべく動かして便を送ることなどが必要です。また、便秘薬については大腸を動かす“刺激性下剤”と便に水分を加えて柔らかくする“浸透圧性・上皮機能変容薬”

があります。刺激性下剤を常用すると腸の動きが低下して、ますます難治性の便秘になってしまうため、まずは浸透圧性・上皮機能変容薬を定期的に服用して便秘の改善を目指すのが一般的です。」と近年の便秘治療についても語りました。当日は150名以上の方にご来場いただきました。

第42回公開医療講座（第13回がん市民公開講座）は諸般の事情により、開催を延期しました。次の開催は未定ですが、開催が決定しましたら広報ふなばしや当院のホームページでお知らせする予定です。

当院で働く人々

～臨床心理士の仕事～

精神科 心理 富田千代 武田沙織

「臨床心理士」という名称はあまり聞き慣れないかもしれませんが、カウンセラー、心理相談員と言われれば、どんな職種なのか想像つく方が多いのではないのでしょうか。名称は支援の場に応じて異なり、当院では「心理」が用いられています。

「臨床心理士」は民間資格ではありますが、文部科学省が全国に配置しているスクールカウンセラーの資格要件に定められているように、公的に活用されている資格です。悩みや心の問題に対して気持ちや考えを整理したり、問題解決へと導くための手助けを主な仕事としています。



2018年には心理系では初の国家資格「公認心理師」が誕生し、私たちを含め多くの臨床心理士が2つの資格を保有し、活躍の場も更に広がってきています。

当院精神科では、本年度より常勤臨床心理士1名が増員となり、2名体制でカウンセリングや心理検査等の心理業務に従事して参ります。また、患者さんの精神的なケアは精神科だけではなく、あらゆる診療科でも求められているため、リエゾンチームをはじめとするチーム医療に参加し、多職種と協働しながら患者さんの全人的なケアに努めています。



箱庭

病院ボランティア（患者さんの案内や図書の本整理など）を募集しています。詳しくは、医事課まで

救命救急センターの現場から ー未来の社会のために抗生物質を正しく使いましょう!!ー

今回は抗生物質についてご説明します。抗生物質は1928年にイギリスの Fleming 博士により発見されたペニシリンが始まりです。博士はこの功績により1945年にノーベル生理学・医学賞を受賞されていますが、受賞スピーチの際に「気をつけろ、細菌を根絶やしにしようとするれば、いつか人類は振り返りに遭うだろう」と発言されています。

以前は効果のあった薬が微生物に効かなくなる現象を「薬剤耐性 (AntiMicrobial Resistance)」と言い、AMRと略されます。不適切な抗生物質の使用はAMRを持つ微生物を増やしてしまいます。世界保健機関 (WHO) でも積極的にAMR対策を行わないと2050年にはAMRはがんよりも深刻な問題になるとしています。

抗生物質の不適切な使用とは、抗生物質が効かない疾患 (ウイルスによる風邪や胃腸炎、イン

フルエンザなど) に使用したり、投与量や投与期間が不適切だったりすることを言います。これらを

守ることが長い目でみるとあなた自身や未来の社会のために大切なことなのです。詳しくはAMR臨床リファレンスセンター (URL: <http://amr.ncgm.go.jp/general/>) をご参照ください。

当院ではAMR対策を考慮して抗生物質を使用するように心がけています。救急外来に限らず、もし抗生物質が処方されなければ、あなたや家族、地域のことを考えていると思ってください。一方で、抗生物質が処方されたら処方された用法、期間をきちんと守ってください。

あなたの知識と勇気で「いのち」を救えます!

救命救急センター長 角地 祐幸



剖検慰霊祭を執り行いました

令和2年2月5日 (水) に今回で3回目となる剖検慰霊祭を執り行いました。この慰霊祭は、ご遺族の承認を得て当院にて病理解剖され、医学の発展および研究に貢献いただいた故人の冥福を祈り、ご家族に謝意をお伝えするために3年に1度行っています。

今回は、平成28年10月から令和元年9月までにご協力いただいたご遺族をお招きして執り行いました。当日は8組12名のご遺族のほか、院長、病理医をはじめとする医師や看護師など18名の職員が参列しました。

病院を代表して丸山院長が「次世代の人々が、少しでも病気の苦しみから解放される方法は、亡くなられた方々の御篤志によって支えられている病理解剖による検討が極めて重要です。」と慰霊の言葉を述べました。続いて、解剖にご協力いただいた30名の方々、全員のお名前が奉読され、参列者全員による献花が行われました。

病理解剖へのご協力に対する謝意を改めて表するとともに、ご冥福をお祈りいたします。



令和2年度 募集概要

資格をお持ちでない方もできるお仕事です!

看護補助者 (会計年度任用職員) 募集

●資格/特になし ●時給/ 1,112円 ※勤務条件に応じて賞与あり
※詳細は当院ホームページ (<http://www.mmc.funabashi.chiba.jp>) をご覧ください。



外来担当医師一覧表

令和2年4月1日現在

		月	火	水	木	金	備考
内科	新患	〔交替医〕	多部田 弘士/清水英樹	下山 立志	福澤 茂	伊藤 拓/葉山奈美	(火)は、第1・3・5多部田、第2・4清水(金)は、第1・3・5伊藤、第2・4葉山
	呼吸器	伊藤 拓 黒木 嗣子 東郷 聖子 石井清文/関 厚佳	天野 寛之 中村 純 関 厚佳 安藤 健/笠松伸吾 伊在井 亮	葉山 奈美 藤田 哲雄	中村 祐之 中村 純 水本 英明 伊在井亮/渡部主樹 石井 清文	天野 寛之 藤田 哲雄 小林 照宗 藤井 渚夕 笠松 伸吾	一段目と三段目の医師は、原則、消化器内科からの予約患者のみ (水)安藤が午前、藤井が午後 (水)石井が午前、渡部が午後 (月)は、第1・3・5石井、第2・4関 (火)は、第1・3・5安藤、第2・4笠松 (水)は、第1・3・5小林、第2・4東郷 (木)は、第1・3・5伊在井、第2・4渡部 (火)伊在井、(木)石井は、午後のみ
	消化器						
	代謝	岩岡 秀明 下山 立志	下山 立志	栗田 健市	下山 立志	岩岡 秀明	
	腫瘍			平野 聡	平野 聡		腫瘍内科は、肺がん、縦隔腫瘍、原発不明がんのみ 完全予約制 (月)午前は第1・3・5窪田、第2・4清水
	腎臓 リウマチ・膠原病	〔午前 リウマチ・膠原病〕 清水英樹/窪田沙也花 〔午後 腎臓内科〕 清水 英樹	〔午前 リウマチ・膠原病〕 松野 裕樹 〔午後 腎臓内科〕 松野 裕樹			〔午前 腎臓内科〕 清水 英樹 〔午後 リウマチ・膠原病〕 清水 英樹	
心臓血管センター	循環器科 新患	稲垣 雅行 内山 貴史 芝山納恵瑠	黒岩 信行 沖野 晋一 石脇 光/黒岩信行	内山貴史/林啓彦・芝山納恵瑠 岩田 曜 内山貴史/丘 慎清	黒岩 信行 丘 慎清 沖野晋一/岩田 曜	福澤 茂 石脇 光 林 哲彦	(火)黒岩は第2・4 (水)第1・3・5林・芝山、第2・4内山 (火)第1・3・5黒岩、第2・4石脇 (水)第1・3・5内山、第2・4丘 (木)第1・3・5沖野、第2・4岩田 午後1:30～ (火)第2高原、第1・3・4・5茂木
	心臓血管外科	〔手術日〕	高原善治/茂木健司	〔手術日〕		〔手術日〕	
緩和ケア内科			武田 英男		武田 英男		午前9:00～ 予約患者のみ 新患は事前予約が必要(電話も可)
精神科	新再来	宇田川雅彦 伊賀 裕子 武田真梨子	宇田川雅彦 宇田川雅彦 佐藤 純一 河内 遼 今泉 孝章	宇田川雅彦 宇田川雅彦 丹羽 淳子 甲斐 千明	宇田川雅彦 宇田川雅彦 木谷 豊 竹本 直輝	大矢 雅樹 伊賀 裕子 坂井 美穂	
小児科	新患(消化器・一般)	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	
	消化器・一般	夏目 俊之 吉岡 隆文 青柳 智義 南村 真紀	佐藤やよい	丸山 尚嗣 野手 洋雅 青柳 智義 〔交替医〕	田中 元 貝沼 修 仙波 義秀	吉岡 隆文 澤田 尚人 松崎 弘志 南村 真紀	(水)丸山 午前のみ (金)吉岡は第2・4
	乳腺	〔交替医〕 〔手術日〕	池之上純男 高瀬 完 榎本 隆宏	三村 雅也 鮫田 寛明 染谷 幸男	〔交替医〕 秋山 友紀 橋本 瑛子 〔手術日〕	〔交替医〕 北條 篤志 〔手術日〕	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可) (木)橋本は第1のみ
整形外科	〔手術日〕	小野紗耶香 浅井麻衣香	小野紗耶香 浅井麻衣香	乳房再建外来 〔手術日〕	小野 紗耶香 浅井 麻衣香	(木)乳房再建外来は第1・3・5の午前のみ (月)根本、(水)内藤、(金)畑山は新患患者のみ (木)安間は第1のみ (木)第2・4 午後1:30～ 予約患者のみ (火)は再診のみ	
脳神経外科	内藤 博道 新美 淳 根本 文夫	〔交替医〕 〔手術日〕	畑山 和己 森脇 拓也 内藤 博道	安間 芳秀 〔交替医〕 〔手術日〕	根本 文夫 田坂 研太 畑山 和己		
脳神経内科		鶴岡 淳		宗像 紳			
呼吸器外科	一ノ瀬修二 荒牧 直	一ノ瀬修二 荒牧 直	〔手術日〕	一ノ瀬修二 木下 孔明 荒牧 直	〔手術日〕		
皮膚科	今関 梓 深田 義仁	今関 梓 宮川 健彦	今関 梓 深田 義仁	宮川 健彦 深田 義仁	今関 梓 深田 義仁 大田 玲奈	皮膚科は予約患者のみ (紹介状ありは可) (金)今関、深田は隔週	
泌尿器科	〔交替医〕	佐藤 信夫 武井 亮憲	佐藤 信夫 〔交替医〕	佐藤 信夫 金岡 尚志	佐藤 信夫 木下 涼		
産婦人科	齊藤 俊雄 名古ゆり恵	大村 涼子 森 麻子 〔手術日〕	齊藤 俊雄 名古ゆり恵 〔手術日〕	齊藤 俊雄 名古ゆり恵 〔交替医〕	佐々木直樹 森 麻子 〔手術日〕		
眼科	小林 悠里 太和田昌枝	松枝 美文 〔手術日〕	上原 七生 松枝 美文	太和田昌枝 小林 晋二 〔手術日〕	小林 悠里 小林 晋二	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可)	
耳鼻いんこう科	小林 皇一 大熊 雄介 〔手術日〕	〔交替医〕 〔手術日〕	小林 皇一 大熊 雄介 〔手術日〕	〔手術日〕	砂金 美紀 小林 皇一		
放射線治療科	有賀 隆 荒木 仁	荒木 仁 小野澤正勝	有賀 隆 小野澤正勝	荒木 仁 小野澤正勝	荒木 仁 小野澤正勝	完全予約制	
麻酔科	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕		
歯科口腔外科	川崎晃平/村野彰行	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	午前9:00～11:00 予約患者のみ (月)川崎が午前、村野が午後 午前 予約患者のみ(電話も可) 午後1:30～ 予約患者のみ(電話も可) 午後1:30～ 午後1:00～ 午後 予約患者のみ(火)は第2・4	
特殊外来	女性専用(内科)			戸出のぞみ	古池 織恵		
	脳神経内科(内科)						
	ステントグラフト外来(心外)		櫻井 学				
	ペースメーカー外来			〔交替医〕			
	小児循環器(小児)	佐藤 純一 河内 遼/竹本直輝	村社 歩美	佐藤 純一			
	小児神経(小児)		高梨潤一(月1回)		牧野道子(月1回)/ 内山 薫(月2回)		午後 予約患者のみ
	小児腎臓(小児)				三浦健一郎(月1回)		午後 予約患者のみ
	小児アレルギー(小児)			下条直樹/薄井 香			月2回 午前9:00～予約患者のみ 月1回 午前9:00～予約患者のみ 午前のみ(午後手術)
小児内分泌(小児)					杉原 茂孝		
小児外科(外科)				小松 秀吾			
遺伝カウンセリング					青柳 智義	午後1:00～4:00 予約患者のみ(電話も可)	

担当医師は、状況により変更することがありますので、受診の際には当院のホームページ等でご確認ください。

※特殊外来の小児循環器、小児神経、小児腎臓、小児アレルギー、小児内分泌の予約および予約変更は午後2時から4時の間に小児科外来へ電話してください。